

みみタロウ

にほんごばん ☆ 149号 2023年10月

しがけんこくさいきょうかいぼらんていあぐらーぶ「みみタロウ」

じゅうしよ おおつし はま び あざおうみ
住 所：大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2F

Tel : 077-523-5646

E-mail : mimitaro@s-i-a.or.jp

URL : https://www.s-i-a.or.jp

f : https://www.facebook.com/siabiwako



こ そだ いまおも こと 子育てについて今思う事

こんかい たろ う ちゅうごくご つうやくほんやく ごがくきょうし りゅうえい はなし うかが
今回みみタロウは、中国語の通訳翻訳、語学教師をされている劉 穎さんにお話を伺いました。



ちゅうがく ねん と き ちゅうごく
中学1年の時、中国
ざんりゅうほうじん かぞく
残留邦人の家族とし
て中国から来日しま
した。大学では日本語
きょういくがくか まな
教育学科で学び、
ちゅうごく ほんご
中国で母語を学びな
おして通訳や翻訳をし
ています。二人の息子

たちもようやく成人し、私の子育ては一段落したところですが、子育て相談の場で通訳を務めることもあり、自分の育児も振り返りつつ、異なる文化の中で子どもを育てることの難しさを痛感しています。

子育ての文化は国により、世代によっても、その時々々の社会を反映して様々です。私が育った頃の中国では、親が子どもを叩いてしつけ、子どもが泣いて謝る、というのが定番で、親と子ははっきりと上下関係にあり、それでも子どもはそれが親の愛情だと理解していました。時代は変わりましたが中国では、今も基本、子どもを厳しく育てます。日本では、学校で子どもが廊下に立たされるといったかつての光景はもう見られなくなり、子どもの権利を大切に、子どもを対等に扱うようになっていきます。こうした両国の文化の違いから、子どもを厳しくしかったり、家の外に立たせたりといった私たちにとって当たり前なこと、日本では、場合によって虐待と見なされるなど、思いもよらない問題に発展することがあります。祖国の文化の継承は大切ですが、ここに暮す私たちにはそぐわないものもあるので、日本の法律や文化を学ぶことが必要です。そのためにも、子育てに関する情報入手や相談が気軽にでき、親同士が交流できる場所があれば、子育て世代には心強いと思います。

子育ての相談の通訳では、様々な問題を抱えた親子に出会います。相談員はそれぞれのケースについて冷静に状況を整理し、関係の修復を自指してアドバイスをしていきます。中には子どもへの思いは沢山あ

るのに適切に表現できず、うまく親子関係が作れなかったり、親は全てを子どもに与えているつもりでも、実は子どもが望んでいるのは、単に平和な家庭や優しいお母さんだったりします。こうした場で親が子育てを学び直し、新たなスタートをきる場面に接すると、親子へのサポートの大切さを実感します。

私自身も相談の場に立ち会うことで、自分の子育てを見直すきっかけになりました。もうやり直しはできないのですが、子どもを信じて見守る事が十分できず、自分が受けていた子育てスタイルのままに厳しいお母さんだったと思います。特に子ども達が小さい頃は、周りに頼る人もない孤立した状況だったので、自分に余裕がなく、一生懸命でしたが子育てを楽しめませんでした。他の人と比べて、「どうして私の子育ては上手くないかなんだろう」とつらくなったこともあります。また子どもが思春期の時には、息子の反抗が激しく、何を言っても話が通じ合わずとにかく何でも反抗されるといった状況が続きました。今思うと、そういう大変な時期というのは、実はとても子育ての大事な時期で、その最中にいると出口が見えないのですが、苦しくても投げ出さずにいると、必ず過ぎ去るものです。大人になった息子に「あの頃あんなに反抗して、どうしてほしかったの？」と訊ねてみたことがあります。すると息子から「友達のように平等に扱ってもらいたかった」と思いもよらない言葉が返ってきました。彼が求めていたものと私の子育てスタイルにはギャップがあったんですね。でも、こんな会話ができるようになった事自体、一つの時期が終わったんだなあ、と感慨深かったです。

私の子育てはほぼ終了しましたが、これからも「お母さん」は続きます。そして次のステージでは、子どもと対等に楽しく付き合いたいです。子育てが下手な母親だったけど、いっぱい思っていた事をどうやら子ども達もわかってきているようで、だから「お母さん」で良かった、と思っているんですよ。